

## Special Essay

### 「文献検索今昔」

小児科学講座

須田 憲治

僕が図書館に行かなくなって何年経つだろうか？最近机の上でことが済むようになってから、図書館についぞ足を運ぶことが無くなってしまった。僕の学生・研修医の頃（1980年代）はインターネットもなく、論文の検索と言ったら「Index Medicus」と「MeSH」という分厚い本と格闘することだった。「MeSH」とは Medical Subject Headings の略であり、現在 PubMed などのサーチエンジンで文献検索をする際の、検索用語の一覧の様なものであった。この2つは常に対になっており、探している論文のテーマについて「どんな検索用語を使えば良いか」を決めるのに MeSH に載っている検索用語でないとうまく検索ができなかった。MeSH で適当な検索用語をみつけた上で、現在の MEDLINE (MEDical Literature Analysis and Retrieval System Online) の原資料となった Index Medicus で、自分で論文を探した。今も臆気ながらに覚えているのは、1年ごとに発行された何冊にも渡る Index Medicus をひろげて、テーマに合っていそうな論文を拾い上げる作業だけで数時間を必要とし、当該の雑誌の棚に行ってその論文を探し出すのに、さらに何時間もかかる大変な作業だったということだ。お昼過ぎに取りかかっても、いくつかの雑誌を調べて、実際の論文のコピーを手にする頃には、外は暗くなっていた。

それが今やインターネットの時代である。インターネットを自由自在に使える現在、PubMed などのサーチエンジンに適当に検索用語を入力すれば、コンピューターの性能やインターネット接続の速度にもよるが、ほぼ瞬時に結果が出る。うまく文献に当たらなければ、他の用語を入れてやり直してみれば、またまた瞬時に結果が出てくる。何という便利な時代になったのだろう。実は今の PubMed も MeSH を使っていて MeSH Database というのを使えばより効果的な検索ができるのである。Spell を間違えた時など、英語で「あなたの意味する単語はこれですか？」なんて MeSH にあわせた言葉が出てきたりすると、つくづく「親切だなー」と思ったりする。

そして極めつけは Online Journals である。検索した文献を click すれば Format にもよるが、Title, Authors, Abstract がわかるだけでなく、右の端っこの方にある雑誌名を click すればその論文の載っている雑誌の site にたどり着く。Free full text だったり、大学の契約している雑誌だったりすれば、そのまま PDF 版の論文が手に入るし、大学が契約していなければ、クレジットカード番号を入力すれば自費で論文が手に入ることもある。最近では、Paperless を心がけて、できるだけ PDF でコンピューターの Hard disk に保存して、print out したものは読んだら捨ててしまおうと思っている。iPad を買えたら、print out もやめようかな・・・（但し、ヤマノカミの OK をもらわないと駄目だけど）。

